



日本サーバス本部会報

2023. 1 日本サーバス会長 NS

新年あけましておめでとうございます。

2022年はコロナ禍、ロシアのウクライナ侵略、それに伴う各国のエネルギー不足、物価高など大変な年でした。2023年こそは明るい良い年でありますようにと願わずにはられません。

サーバスも転機を迎えています。11月22日から26日までSICOGA(サーバス国際会議)がインドで開かれました。今回は対面とオンラインのハイブリット方式で行われ、日本からはオンラインで6名が参加しました。その様子は国際会議の速報でもお伝えしましたが、次の1で会議内容をお伝えします。

また各国に関係することですが従来は国際サーバスへの拠出金は旅行をした人のeスタンプの数に基づいて支払っていましたが、2022年末時点でのSOLに登録した各国のメンバーの数に基づいて支払われることになりました。これに伴って、国際サーバスへの日本の拠出金が3倍強に跳ね上がります。

日本サーバスでは会長になって以来SDGsの活動を進めたいと思っていました。皆様のご協力で本部会報への投稿や第2回東アジア地区オンライン交流会でのプレゼンなど素晴らしい活動を紹介していただきありがとうございました。また次の2で近畿支部のHさんが素晴らしいSDGsに関する個人での活動や思いを紹介していただいています。ぜひご一読ください。SICOGAでもSDGsの活動が推進されてきました。将来の世代のためにもまたサーバス活動の発展のためにも大変重要な観点であると思います。今後とも皆様のご協力よろしくお願ひします。



今回の会報は、次の内容でお届けします。

1. SICOGA 2022 サーバス国際会議の報告 会長 [NS](#)
2. An Ode to SICOGA2022 (SICOGA2022 への頌歌) . . . 国際サーバス会長 [Radha Radhakrishna](#)
3. SDGs 実現に向かって行動しよう 近畿支部 [HT](#)
4. 国際サーバス会報 (SINB) Vol.26.No3の紹介 日本サーバス [国際部](#)
5. 第5回東アジア地区オンライン交流会の感想
 - 久しぶりのワクワク、ドキドキ 九州支部 [YK](#)
 - オンラインで仲間に出会える楽しさ 東海北陸支部 [OT](#)
6. あとがきにかえて 会長 [NS](#)

1. SICOGA 2022 サーバス国際会議の報告

NS



今回はまだコロナも収束していないということで日本からは国際会議史上初となるオンラインで参加しました。国際サーバス始まって以来の対面とオンラインのハイブリット形式で行われましたが、最初いつもと違うオンライン会議のツール Microsoft Teams に慣れるのに少し時間がかかりました。参加者の皆さんとオンラインで歌の練習をしたり、お話をしたりして、皆さん参加に臨みました。

22日に会議にログインしてみると開会式ということでしたが、インド式のお祭りのようで、

画面を通じてインドの風景や気候、皆さんの興奮した楽しそうな様子が伝わってきました。

23日、24日はいろいろなワークショップが開かれ、ウクライナからのリモート映像なども送られてきました。その他、気候変動に関するワークショップ、SDGsに関するワークショップ、LGBTに関するワークショップなど先進的な議論が進んでいきました。

25、26日は各国の議決権を持っている会長を中心に BUSINESS MEETING が行われました。議案は全部で40ぐらいありましたが、25、26日に討議されほとんど可決されました。その中でも前もって送られてきた5つの議案は今回初めて採用された電子投票に付されて、以下のような結果になりました。なお、投票の参加国は100か国+のサーバス加盟国中、実質参加が35か国ぐらいで、リモート参加は3、4カ国でした。

* 前もって送られてきた議案とその結果

議案1: 国際サーバス会則の従来「人間と人間の倫理」に新しく「人間と地球の倫理」を含む必要性

・フランスから従来「平和を基調とする原理の下に地球の倫理を置くべきでは」という意見にジョニー会長は「これは並列すべきである。」という意見を述べられそれが通り、可決されました。日本サーバスも賛成しました。

議案2: 国際サーバスの指名・職務記述書チーム(SI NT)という名称を国際サーバスの指名・職務記述書委員会(SI NJDC)に変えたい。

・民主的な選挙によってメンバーを決めたいということで、賛成しました。

議案3: メンバークラウド(各国)によるサーバスホストとトラベラー間の問題解決手順の採択について

・内容をもっとまとめてほしいという提案があり、ワーキンググループが26日に再提出され、賛成多数で可決されました。(これは会場で投票)

・最初の議案では国で手順(policy)を決めていないときはSI(国際サーバス)の基準に従うことと書いて

であったのが、SI でそれを決めるのに時間がかかるので、再提出の議案ですべての国が各自の問題解決手順(policy)を持つことが推奨された。必要に応じて Servas Canada、Servas France、Servas Malawi、または US の紛争解決ポリシーを、独自のポリシー文書を作成するためのモデルとして使用できます。という結果になった。

これにはカナダと日本は棄権をしたが賛成多数で採決された。

議案 4: すべての国/グループは SI-倫理行動規範に従うことを認めることを提案します。

・議案 3 との関連。中身がまだ具体的に決められていないので、この書類は 12 月 28 日までにワーキンググループが SI に提出し、各国に Distant Vote (遠隔投票ではかられることになった)。DV (遠隔投票) の議案は 2 月ぐらいに各国に送られてくるが締め切りは 5 月 23 日である。送られてきてから役員会で討議し、DV は次年度になるのでその内容を次期会長に申し送りする。

議案 5: Servas の旅行者のための標準化された紹介状 (LOI) の普遍的な採用

・賛成多数で可決

議案 6: 従来、Servas 国際紛争(問題)解決チーム (SI CRT) が任命されたがその後任として Servas 国際問題解決委員会 (SI CRC) を選出する。

・民主的な選挙によってメンバーを決めたいということで、賛成多数で可決。

*その他の特筆すべき事項

・ユース部長の N Y さんが国際サーバスの AUDIT COMMITTEE (会計監査委員会) の委員に選出されました。日本サーバス始まって以来の国際サーバスでのお仕事で、日本サーバスユース部長との兼任で大変でしょうが、頑張ってください!

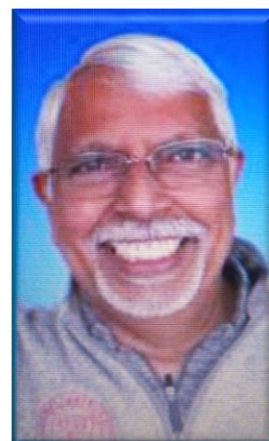
・そのほか国際サーバスの会長が Jonny 氏から、今までの会計の Radha 氏に代わります。次に国際サーバス会報 No. 4 に掲載された Radha 氏のあいさつ文を紹介します。

2. An Ode to SICOGA2022 (SICOGA2022 への頌歌)

国際サーバス会長 Radha Radhakrishna

SICOGA2022 was held at the Asia Plateau campus, Panchgani, India, a 68 acre (27.5-hectare) property nestled in a regenerated forest, in the shadow of a flat tabletop mountain. It provided a wonderful venue for the Servas International Conference and General Assembly (SICOGA), The opening ceremony, with Indian-style celebrations and dances, heralded a triumphantly successful meeting where more than 130 members from 39 countries participated.

During the meeting there were animated discussions on climate change, promoting peace during armed conflict, the status of women, and travelling as a way of reducing prejudices. We agreed that peace among humans requires us to take



care of our planet.

We went on many nature walks, much needed to work off all the weight we gained from the wonderful meals served during the conference. We even “talked shop”-speaking, for example, about Version 2 of Servas.org.

The best part of SICOGA 2022 were the intangibles that everyone experienced: the camaraderie, the cultural fusion, and the wonderful Indian hospitality that we enjoyed. The outstanding energy it generated when we do things together was also a high point. It showcased what Servas does best. SICOGA 2022 will stay in our hearts for a very long time.

SICOGA2022 への頌歌

国際サーバス会長 ラダ・ラダクリシュナ

SICOGA2022 は、インドのパンチガニにあるアジア高原キャンパスで開催され、平らな卓上山の陰にある再生された森に囲まれた 68 エーカー (27.5 ヘクタール) の敷地です。サーバス国際会議・総会 (SICOGA) に素晴らしい会場を提供し、インド風の祝賀会と踊りを伴う開会式から始まり、39 カ国から 130 人以上のメンバーが参加した勝利に導いた会議を収めました。

会議では、気候変動、武力紛争中の平和の促進、女性の地位、偏見を減らす方法としての旅行について、活発な議論が行われました。私たちは、人間の中の平和は私たちの惑星を大切にすることを伴うものであるということに同意しました。

私たちは多くの自然散策に出かけましたが、会議中に提供された素晴らしい食事から得たすべての体重を取り除くために大いに必要でした。また散歩中、仕事の話、たとえば、Servas.org のバージョン 2 についてなども話しました。

SICOGA 2022 の最高の部分は、誰もが経験した無形のもの、つまり友情、文化の融合、そして私たちが楽しんだ素晴らしいインドのおもてなしなどでした。一緒にやったときに生まれるエネルギーも抜群でした。それは Servas が最も得意とすることを示しました。SICOGA 2022 の思い出は非常に長い間私たちの心にとどまることでしょう。

3. SDGs 実現に向かって行動しよう

近畿支部 HT

会長が就任当時から大切にされてきた SDGs、それに関する会員からの記事は何度か本部会報に登場し、又東アジア地区オンライン交流会で日本が当番の時もテーマに選ばれました。この度、「SDGs シリ

一ズのまとめとしての原稿」をと会長から連絡がありました。「う〜〜ん 難しい 出来るかなあ??？」と言うところですが、、、。SDGs、それは私たちみんなが一人残らずこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を2030年までに実現するために定められた達成すべき目標で、2015年に国連総会で採択されました。

SDGs17の目標	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任、つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさも守ろう
7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

今年はSDGsが国連総会で採択されて達成目標の2030年までの約半分くらいの期間が過ぎた所です。残りの期間で目標が達成出来るだろうかを考えた時 「??？」いや「否」と言った方が良い位だと感じています。目標を実現するためにいろんな努力をされていても、ロシアによるウクライナ侵略、コロナ禍、気候危機、覇権争いが果てしなく激化している世界の国々等々、あまりにも多くの事が起こりすぎて出口が見えません。SDGsの目標達成は遙か彼方と言えるのではないのでしょうか。

では目標を実現するためにはどうすれば良いかを考える時頭に浮かぶのは、困難をこじ開けようと行動する多くの人々です。私が最近見聞きした事の中から印象に残っている事を少し述べます。

原爆被爆者の行動

原水爆禁止世界大会や映画「長崎の郵便配達」で被爆者の方に出会いました。彼らが語ってくれた被爆の様子は想像を絶する過酷なものでした。ある人は被爆した背中の治療のため背中を触れさせないように1年半うつむきの姿勢を保たねばならず、そのために布団に接している体の前半分には褥瘡が出来て、骨が見える位まで腐り出しました。そのような肉体的な問題以外にも世間からの差別があります。就職や結婚に対する事は言うに及ばず、日常的にも側に行くと「うつるから離れて」と言われたり、被爆に輪をかけた困難が彼らの上にあります。でも、彼らはそんな状況にあっても決して被爆にひるむのではなく、力強く「2度と私たちのような被爆者を出してはいけない。そのために核兵器廃絶を」と訴え続けました。この事が契機となって、1955年8月に広島で第1回原水爆禁止世界大会が、



翌 56 年には長崎で第 2 回原水爆禁止世界大会が開かれました。以来毎年世界の人々と連帯して原水爆禁止世界大会が開催されていて、今や核兵器廃絶は世界の大きな流れになっています。彼らは生きる限りあらゆる努力をされています。2022 年にもたれた核兵器禁止条約第 1 回締約国会議や核不拡散再検討会議にも出席して被爆体験を語り、力強く核廃絶を訴えられています。

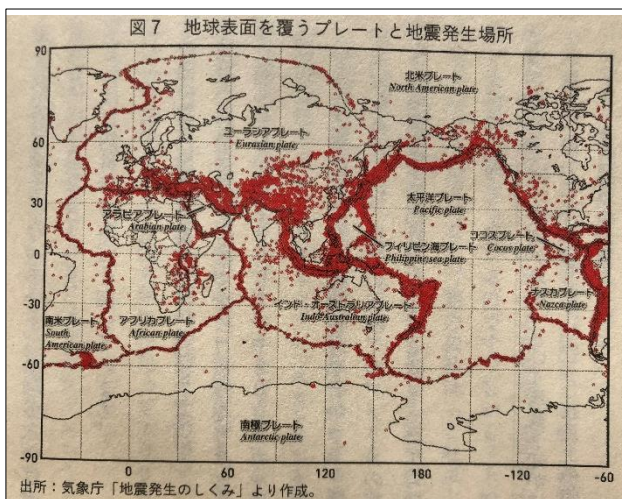
元福井地裁裁判長樋口英明氏の行動

樋口英明氏は裁判長として、関西電力の大飯原発 3・4 号機の運転差し止め判決を、又、高浜原発 3・4 号機差し止め仮処分を言い渡して、一定期間運転を止められました。その方の講演会「司法の責任とは何か」があったので参加しました。氏は原発の運転は許されないという結論に至るまでの道筋「①原発事故のもたらす被害は極めて甚大。②それゆえに原発には高度の安全性が求められる。③地震大国日本において原発に高度の安全性があるということは、原発に高度の耐震性があるということにほかならない。④我が国の原発の耐震性は極めて低い。⑤よって、原発の運転は許されない。」を我が国最大の原発事故である東日本大震災、我が国に起こった地震の規模、我が国の原発の耐震性などを上げながら極めてわかりやすく話して下さいました。



例えば、地震発生メカニズムと原発と関係については次のようでした。

地球の表面は 10 枚あまりのプレート（岩盤）によって形成されている。プレートは大きなエネルギーがあり、地震はプレートとプレートの境目で起きている。日本は 4 つのプレートの境目に存在する世界で唯一の国で、世界の 10 分の 1 以上の地震が我が国で起きている。図 7 の赤い点は M4 以上の地震の発生場所である。日本は赤い点によって完全に形が見えなくなっていて、国内に地震の空白地帯はない。日本はこのような状況下であるにもかかわらず、



原発の耐震性は極めて低い。よって、原発の運転は許されない。

樋口さんの大飯原発 3,4 号機運転差し止め請求事件判決から少し紹介します。

「生存権を基盤とする人格権（憲法 13 条、25 条）が公法、私法を問わず、全ての法分野において、最高の価値を持つとされている以上、本件訴訟においてもよって立つべき解釈上の指針である。原子力発電所の稼働は電気を生み出す手段たる経済活動の自由（憲法 22 条 1 項）に属する物であって、憲法上は人格権より劣位におかれるべきものである。多大な被害をもたらした福島原発事故後において、この判断を避けることは裁判所に課せられた最も重要な責務を放棄するに等しいと考えられる。たとえ本件原発運転の停止によって多額の貿易赤字が出るとしても、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろしていることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失である。」

判決文から氏の姿勢が伺われ、私は感動しきりでした。

COP27（国連気候変動枠組条約第27回締約国会議）

温室効果ガスが地球を覆うことによってもたらされる地球温暖化のために、地球のあちこちで山火事や干ばつ、極端な豪雨、雪の被害など数々の問題が起こっています。パキスタンでは2022年洪水のために国土の3分の1が水没し、3300万人以上の人々が被災しました。そういう状況を打開するために毎年COPが開催されて気候温暖化を防止するための方策が話し合われています。2021年イギリスでのCOP26では、産業革命以降の気温上昇を1.5°C未満に抑える目標に向けて各国が決意をもって取り組むことが確認されました。しかし、現実には世界各国が目指す削減目標の合計は到底それに及んでいません。



そんな中で2022年のCOP27はエジプトで開かれました。西インド洋の島国セーシェルの大統領が温暖化による海面上昇の被害を訴えて、温室効果ガスを大量に排出してきた先進国（G20が85%排出）の責任を追及しました。開発途上国は先進国が出す温室効果ガスのために、深刻な気候災害に見舞われているのです。途上国は気候変動に脆弱な途上国を支援する基金の設立を強く求めました。先進国側は中々その要求を認めませんでした。会期を2日延長して、その規模やどの国が拠出するかなどの具体的内容は持ち越されたものの、「気候変動による損失と被害に対する基金を設立する」という合意にこぎ着けました。これは今回初めて正面から取り上げられた画期的なことでした。

今、ロシアによるウクライナ侵略で地球上のCO₂の値は上昇し、ロシアが天然ガスの輸出を渋っているため、各国のエネルギー事情に困難が生じています。COP26での気温上昇を産業革命前の1.5°Cに抑える目標達成に向けて排出削減の強化が打ち出せるか問われましたが、残念ながら「1.5°Cに抑えるための更なる努力の追求を決意する」ととどまりました。又、多くの人々が求めた「全ての化石燃料の段階的廃止」は盛り込まれませんでした。このように遅々たる歩みですが、皆が合意できる所で前に進めるのはとても素晴らしいことです。



日本にとって残念なことは気候変動対策の足を引っ張る国に与えられる化石賞を今年も受賞し、これで3回連続の受賞となりました。又、ウガンダの環境活動家からは「日本はCO₂等温室効果ガスを大量に排出している国の1つなのに首相が会議に参加しないなど本気で考えているのか」と言われてしまいました。

今まで述べたような大きな事でもなく、日本サーバス本部会報に書かれているように、多くの会員はSDGs実現のために日々の生活の中で色んな事を実践されています。私も特にSDGsと意識しなくても、日々の生活の中でこうしたら良いなあと思う事をしていきます。

再度国連総会で採択されたSDGsの目標達成が、2030年までには困難でも、いつ頃達成できるだろうと考えた時、それは永遠に私たちの目標であり続け、到達は不可能だと私は思います。東



日本大震災の折、想定外と言うことがよく言われました。でも今周囲を見回した時、どれ程想定外のこと
 が起きているのでしょうか。否、想定外のこと起きないなんて考えられない世の中です。やっと思っ
 ていたことが実現出来ても、次から次へ起こる新しい問題、私たちは「より良き」を目指して生きる努
 力を続けること、到達点は遙か彼方であっても、私たちが SDGs 実現を心に温めて行動する限り、行く
 手にあるのは決して暗雲ではなく、希望の光です。

「全ての人が自由に生き抜くことが出来る社会に向かって行くために自分出来ることは何かを考
 え行動する。」

私もいつまでもその一人であり続けたいと思っています。

4. 国際サーバス会報 (SINB) Vo1. 26. No3

日本サーバス 国際部


SINB No3 の巻頭を飾ったグラビアはサーバス中国四国支部の古くからの会員である H T さんと国際
 サーバス本部の前 Peace Secretary、現ジュネーブ国連事務局サーバス代表のダニエルさん。一緒に
 広島原爆ドームを訪問された時の一枚です。タイトルは“Fukushima to Hiroshima” 今回はこの部
 分だけ特別に全訳を広島支部長の U T さんにお願ひしました。後は各記事の要約を日本サーバス国際部
 が分担して行いました。この機会にぜひ、国際サーバスの Web ページもごらんください。写真を見るだ
 けでも、世界の Servas 活動が垣間見られます。

国際サーバスの会報第 3 号はこちらに掲載されています。

https://www.servas.org/sites/default/files/uploads/news/2022/sinb_2022_03.pdf

<p>4-5 ページ</p>	<p>Fukushima to Hiroshima 福島から広島へ By Danielle Serres ジュネーブ国連事務局国際サーバス代表、</p> <p>[SINB 編集者注：この記事のタイトルについて： 2011 年、福島原発がメルトダウンし放射性物質を放 出した事故は、2015 年の日本在住者や訪日客の記憶 にまだ新しかった]</p> <p>2015 年 9 月、私は友人と旅行し、サーバスホスト のお宅に泊めていただいた。</p> <p>広島では、私たちのサーバスホストである HT さん と、平和記念資料館を訪れた。H さんは 1945 年 8 月 6 日の時点で 3 歳だったが、空を覆う目もくらむよう な光と恐ろしい衝撃音を覚えていた。彼女の父親の遺 骨は見つかることはなかった。H さんの心に憎しみは ないが、核兵器は根絶すべきだとの固い信念があった。</p> <div data-bbox="986 1435 1430 1883" data-label="Image"> </div> <p>平和記念公園の原爆ドーム前でダニエルさん (左) とヒロシマの被害者である H さん (右)。</p>
--------------------	--

	<p>2022年8月6日、広島に投下された恐るべき最初の原子爆弾の記念式典が行われる日、世界のリーダーたちはニューヨーク国連本部に集まり、国連核兵器不拡散条約（NPT）の運用検討会議を開始する。2021年に核兵器が国際法上禁止されて以来最初の運用検討会議である。</p> <p>「核兵器保有国間の緊張が高まりつつあるときに、あいまいな是認や空約束の影に隠れているのは十分ではない。今こそ、NPTを守る道筋として、すべての国が核兵器禁止条約に参加するときである」とICANの事務局長ベアトリス・フィン氏は述べた。ICANとは核兵器廃絶国際キャンペーンのことである。</p> <p>[p.5の写真は上から：・広島原子爆弾投下（1945年）・福島原発事故（2011年）・ベアトリス・フィン氏です。]</p> <p>国際サーバスは、ICANの公式パートナーとして、核兵器禁止のためのすべての発議を支持している。ニューヨーク国連本部のサーバスの代表者のうち2名が、8月のニューヨークでのNPTに関する会議の一部に出席することになっている。またオンラインでのセッションに参加する予定の代表者もいる。</p> <p>[SINB編集者注：ICANについて詳細は以下のサイトをご覧ください。 https://vienna.icanw.org/live]</p>
	以下国際部による要約
6 - 7	<p>Is Peace Possible? (平和は可能か?) By Alison Telsey (SI Representative to the UN in New York /New York 国連へのサーバス代表)</p> <p>ジュネーブ平和週間が10/31～11/4に開催。今こそジュネーブと世界の各組織が、平和促進に関する知識と実践を共有する時である。今年のテーマは“Peace is Possible”（平和は可能である）。人類の歴史上、本当にこの世から、戦争や暴力をなくすることができるのだろうかという疑念もあるが、結論的に私たちが言いたいのは「平和に出番を！」だ。</p>
8 - 9	<p>Servas Sailing in Brazil (ブラジルのサーバス航海旅行) By Alvany Santiago</p> <p>6/16から6/19(2022)、ブラジルの会員が実施したサンフランシスコ川航海のサーバス旅行。参加者の感動と感謝のメッセージが書かれている。写真はワインツアー船、水力発電用のダム水域と水上太陽光発電システムなど。</p>
10	<p>Visiting by Train (列車旅行) By Conni Geisendorf (ドイツサーバス会長)</p> <p>イギリス出身のMark Smithは、世界中の列車旅行を広めるために、「オンラインバイブル」とも言えるウェブサイトを開設している。国際乗車券は、通常48時間有効なので、宿泊施設とサーバス訪問を組み合わせることも可能である。今はサーバス1泊ステイの依頼も可能になっている。[SINB編集長追記；数年前の国際会議でホストが了解すれば、一泊ステイや3泊以上ステイもお願いできるようになっている]</p>
11 - 13	<p>A Journey of Warm Hearts (温かい心の旅) By Daniela Papenberg, Servas Germany</p> <p>2022年2月から4月まで、ドイツのハンブルグからジョージアまでの3,000kmを列車とバスを乗り継いで一人旅をしたダニエルさんの記事。ジョージア語の勉強を始めて、目的地のジョージアはもちろんのこと、途中ブダペスト、ブカレスト、イスタンブールでの心温まるサーバスホスト達との出会いが紹介されている。</p>
14	<p>Making Connections (繋がりをつくる)</p>

	<p>サーバスでは通常の 2 泊ステイ以上の体験が出来る機会がある。www.servas.org の中の Identity & Goals をチェックしてみてください。例) アート、ダンス、ホストの特技や言語を学びあう等々スペインでの具体的な活動が紹介されている。</p>
15 - 16	<p>Joyful Life in a Turkish Village (トルコの村での楽しい生活) By F. Stoduto</p> <p>トルコの Ekinci 村で 2009 年以来、パンデミック期を除いて英語教師の M.Ates さんが子供たちを巻き込み、一緒に生活し、英語、多様性、地方と世界を学ぶワークショップ「平和の学校」を素晴らしいイベントに作り上げた。南イタリアの年配のサーバス会員が数年来の夢を実現して参加したエピソードが語られている。「平和や友情は単なる夢ではなく、その意志さえあれば実現可能なもの。子供たちが私達の教える事以上のものを教えてくれた。」という言葉で締めくくられている。</p>
17 - 18	<p>Connecting Again (再び zoom で繋がりを) By Claudia Sagie(イスラエルサーバス会長)</p> <p>2022 年 9 月 4 日にサーバス・イスラエル主催のズームミーティングが行われ、古くからの友人達や新しい友人達とオンラインで交流できた。6 つのグループに分かれ、どういつながりを作ることができるのか具体的な話し合いがなされた。</p>
19	<p>Our Super Servas Summer 2022 By Michael Johnson (SINB 編集長)</p> <p>編集長がこの夏のサーバス体験を語ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダのケンブリッジでポルトガルのサーバス一家を受け入れた ・アメリカのミシガンでサーバスの数年来の友人の隣人宅にステイし、自然を満喫 ・トロントのホスト宅にステイしヘルシーなシャーベットをご馳走になる ・30 年来の友人であるエリアコーディネーターたちと定期的に食事を楽しんだ。 <p>newsletter@servas.org に読者の体験談を送ってくださいとのメッセージが書かれている。</p>
20 - 22	<p>International Day of Peace</p>  <p>国際平和デーをどのように祝ったか。各地の取り組みが報告されている。</p> <p><Brazil> By Neuma Dantas</p> <p>サーバスブラジルは国際平和デーを近隣のサーバス国と一緒に祝いした。参加国はブラジルの他チリ、ウルグアイ。</p> <p><Guatemala> By Adela Segura</p> <p>平和デーはレストランで仲間たちと一緒に美味しい料理で祝った。帰りには鉢植えをみなさんにプレゼントした。</p> <p><Ireland> By Dot Fine, Dublin Ireland</p> <p>アイルランドのダブリンに住む Dot Fine さんは Peace Day にイギリス領北アイルランドのデリーの街を訪れ街の様子を報告。街では 4 人のノーベル平和賞受賞者の壁画や平和希求のモニュメントが見られ、ブルックリン橋は平和構築への人々の強い思いの象徴とレポートしている。</p> <p><Britain> By Alison Newbery</p> <p>非暴力コミュニケーションについての国際サーバスの Zoom ミーティングに参加したことが語られている。</p> <p><Malawi> By Demelza Benbow</p>

	9月21日にNyambadwe Hillにハイキングに出かけ、そこで平和デーを祝った。
23 - 24	<p>My stay in Panchgani, The SI COGA venue 国際サーバス開催地に滞在 By Marie-Paule Letourneux, Servas France</p> <p>マハトマ・ガンジーの孫であるラジモハン・ガンジーと二度会ったことがある。ラジモハン・ガンジーが設立した Asia Plateau Meeting Center で 2022 年サーバス国際会議が開かれるのは嬉しい事だ。執筆者が属している MRA (Moral Re Armament) についての説明。MRA はその後、改名して Initiatives of Change (変革への取り組み) になった。その理念はマハトマ・ガンジーの精神を受け継ぐものであり、またサーバスの精神とも共通しているものだと執筆者は語っている。</p>
25 - 26	<p>Key people パキスタンのサーバス役員の写真付き紹介。 Plan Ahead for Hosts (ホスト依頼計画はお早めに) By Michael Johnson, SINB editor</p> <p>カナダでのホスト探しの苦労話。ほとんど断られ、最後の一人が受け入れてくれた。前もって十分に計画をたてましょう。との呼びかけがある。</p>

5.第5回東アジア地区オンライン交流会の感想



久しぶりのワクワク、ドキドキ

九州支部 YK

今年6月にサーバスのメンバーになりました YK です。先日初めて東アジア地区サーバスオンライン交流会に参加しました。

少し緊張しましたが、何より 70 人以上の異文化圏のメンバー達がオンライン上で同時にプレゼンテーションを聞き、グループミーティングでリーダーの質問などに答えたり、意見を述べるなどのひと時を共有出来ることなど 時代の変化に驚くと共に素晴らしい事だと思いました。今回は韓国の SPR の活動報告でしたが、サイクリングをしながら地球温暖化の問題提起を無理なく楽しみながら行っている事に感心させられました。又モンゴルと朝鮮半島との間に 700 年前 9 回も戦争があり、今現在たくさんの

モンゴルの方々が韓国に定住しモンゴル人学校もある事など全く知らなかったのも、こんな事を知る事も又サーバスの魅力の一つですね。

プレゼン後のスモールグループミーティングでは個人個人で意見を交換できるのもお互い身近に感じて良いアイデアだと思います。

コロナ禍での長い間の旅行の制限が緩み with コロナで少しずつ国内、海外旅行のチャンスが巡ってき始めました。サーバスメンバーになる事で、ただ海外の観光地を巡るだけの旅行よりその国の方達と直に触れ合って異文化をシェアするチャンスに巡り会える事に今からワクワクします。

オンラインで仲間に会える楽しさ

"Servas is connected all around the world by online!"

東海北陸支部 O T

韓国サーバスの Servas Peace Riding の活動は国境を越えてかなりアクティブに活動していることを知ってすごいと思いました。ただ、参加者の半数が 60 代以上とのことでどこでもサーバスの高齢化問題は対処しなければならない問題なのだと改めて感じました。

オンラインミーティングに参加すると、知っているサーバスの仲間に一度にたくさん会えて非常にうれしく思います。いつも交流の時間が短く、自分が発言できる時間をもっとあれば良いなと思いました。

Listening to the presentation of Servas Korea, I realized that they are globally active with Servas Peace Riding activity. However, more than half of the participants are over 60s, so I thought Servas is really encountering the issues of aging not only in Japan.

Participating in the online meeting, I am very happy that I can see many Servas friends at one time, for which I really feel grateful. One thing I always feel disappointed is that breakout session time is really short so I wish I could talk with other Servas members more.

6. あとがきにかえて

NS

2022 年は世界にとって、かつてないほど閉塞感と絶望に満ちた苦しい年でした。今年こそウサギのように飛躍と希望に輝く年になってほしいと皆が願っています。

さて今年度は 2 年ぶりに日本サーバス国内会議を行う年です。しかし、依然として、コロナ感染は拡大、あるいは高止まり傾向の様を呈しているし、また交通費支給などの本部会計の圧迫を避けるためにも今年度も Zoom による国内会議をしたいと思っております。

日時は 2023 年 3 月 11 日 (土) 13:00~17:00、3 月 12 日 (日) 9:00~12:00 ですが、極力 3 月 11 日で終われるようにしたいと思っております。詳しい案内は 1 月 20 日過ぎにお送りしたいと思ってお

ります。特に議決権を保持されている会員の皆様はご参加をよろしくお願いいたします。

最後までお読みいただきありがとうございました。いつも皆様のご協力ありがとうございます。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

...

[\(目次に戻る\)](#)